

ミニコミちとせ30年 ～世代間交流を推進します～



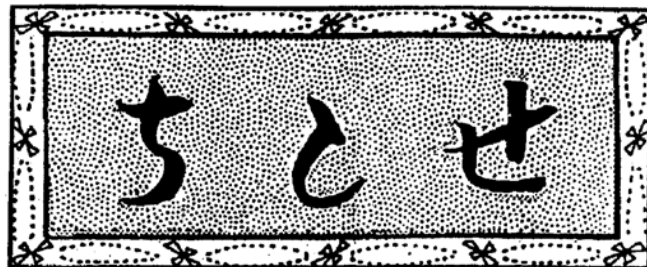
発行・編集 ミニコミ編集委員会
責任者 齋藤和子
事務局 船橋まちづくりセンター
電話 3482-0341
ファックス 5490-7031
2010.11 No.89号



まちの目が
安全・安心を守っています



船橋地区町会・自治会連合会
船橋地区身近なまちづくり協議会
青少年船橋地区委員会/成城警察署/成城加協



創立50周年を迎えて

世田谷区立船橋小学校 校長 小島 誠

今年度、船橋小学校は創立50周年を迎え、一月二〇日に記念式典を挙行了いたしました。当日は熊本区長のご臨席もいただき、盛大に執り行うことができました。式典では、全校の児童が出席し、船橋小学校の生い立ちや伝統などを呼びかけとして発表しました。全校合唱では最高潮に達し、多くの方から感動したとの言葉をいただくことができました。船橋小学校の新しい教育目標に、「地域を愛する船橋の子」という言葉を掲げました。地域に見守られて育った子どもたちがやがて、地域を愛し、地域の担い手となって大きく成長してくれるに違いありません。



創立50周年式典参加の子どもたち

船橋小・船橋中 創立50周年おめでとう

船橋小学校・船橋中学校両校の校長先生と第一回の入学生と卒業生のお二人に思いを綴っていただきました。



開校当時の人文字



創立15周年の人文字

創立50周年を迎えて

～多くの人々に支えられた五〇年間～

世田谷区立船橋中学校 校長 徳永 啓介

一月六日(土)、創立五〇周年記念式典と祝賀会が開催されました。当日は、雲一つない爽やかな秋晴れで、天気も本校の記念すべき日をお祝いしてくれたかのようでした。

この五〇年を振り返り、沿革史や記念誌等を調べてみると「決して平坦な道のり」ではなかったことが改めて感じられました。しかし、その都度、生徒の成長を願う、地域、保護者の方々に支えられて船橋中は発展してきました。式典では生徒が「五〇年のあゆみ」をスライドで発表し、五〇年の歴史を共有することができました。

この度の記念行事に際し、多大なご支援・ご尽力をいただきました皆様に、心から感謝を申し上げます。同時に、本校の発展のために更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



体育館がまだなく外での入学式 (S35.4)

はじめての一年生

船橋小学校第一回入学生 すとう あさえ

私は船小最初の一年生です。まだ小さかったので入学式の話は、まったくおぼえていません。母に聞いたら、校庭の桜がともきれいだっただと話してくれました。校舎もたぶん、びかびかに輝いていたのでしょうか。

小学校時代の思い出といえば、朝礼のあと一列にずらりと並んで、校庭の石拾いをしたことです。両手にいっぱい拾いました。そして雨がふるたびに校門わきにできた大きな水たまり！まるで湖のよう。私はクラクラして水の中にひきこまれそうになったのをおぼえています。今の校庭からは想像できないと思います。五〇年前はかなりデコボコでした。

楽しみだったのは給食です。お休みした子にわらばん紙に包んだパンを届けたのですが、今はどうなのでしょう。

そしてずっとお隣さんの神明神社。秋祭りの準備が始まると、もうソワソワ。休み時間に廊下の窓から友だちと様子をチェックして、集合時間の相談をしたものです。

帰り道も、楽しい「遊び道」でした。ある日アメフリアサガオを見つけました。友だちが「花にツバをかけてドブに流すとあした雨がふるんだよ」というので試してみたら、なんと次の日本当に雨がふりました。もう、びっくり。今もアメフリアサガオはさいっていますが、流すどぶがなくなってしまいました。

登下校の景色もだいぶ変わりました。小学校時代を思い出してみると教室のにおいや、「ちゃん」づけで呼びあう友だちの声、日焼けした白いカーテンの色、木の机の手触りや給食で時々出るあげパンの味……、五感で思い出されることが多いと感じます。きっと子どもなりに辛いこともあったと思いますが、船小時代を思うとほわっと温かな気持ちになれるのがうれしいです。

船小はたくさんの方々のふなっこたち、そして私と姉と弟と息子たちの母校です。いまでも。これからも。

船橋小学校、五十歳おめでとう！



船橋中学校の思い出

船橋中学校第一期卒業生 谷田部 喜久雄

船橋中学校の一期生として創立当時のことなど書かせていただくことになりました。社会人になってからはしばらくこの地域を離れていましたが、戻ってきて、何かと追われて、船中にはご無沙汰でした。

原稿を書くにあたり、普通学した道をなぞってみました。当時沢山あった畑の代わりに多くの家やお店ができていました。また、環八が出来たために、歩道橋を渡らなければならなくなっていました。学校の近くに来たら寶性寺は木々も豊かに残っていました。なんとなくほっとし、うれしくなりました。南側の昔の正門に立ってみると奥の方に立派な体育館も建っています。私たちの時にあったかな？思い出せない。部活で野球を一生懸命やっていたことや、ボールが道路を越えてこちら側の家の庭に入ってしまった、それをひろわせてもらったりもしました。私は三年の秋過ぎぐらいいまで練習にでていたので、「先輩は就職するのですか」と聞かれたこともあったな。体育の時間に行われたマラソンでは学校の周りを走ったが、北側、東側は土の道路で草を踏みしめて走ったことなども思い出した。北側徒歩五分ぐらいの領域の大半は畑や林だったような気がする。そんな中の小高い丘に牛、馬の牧場があった。今の希望丘公園あたりではなかったかと思う。のどかなものであった。

昭和三四年一〇月、私達が中学二年のときに千歳中学校から移ってきて、約一年半学び過ぎさせていただきました。振り返ればあつとつという間に思えます。「少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず」という一節が浮かんできました。一日がとて短く感じる今日この頃です。若いときは無限の時間があるような気もしていました。でもそのくらいでないといけないことに向かっているかもしれないですね。しかし時間に限りがあることも確かなので、若い方には一日一日を大切に生きて欲しいと痛切に感じます。

「森繁通り」命名式典

平成二二年一月一三日(土)一〇時より 千歳船橋駅前広場にて

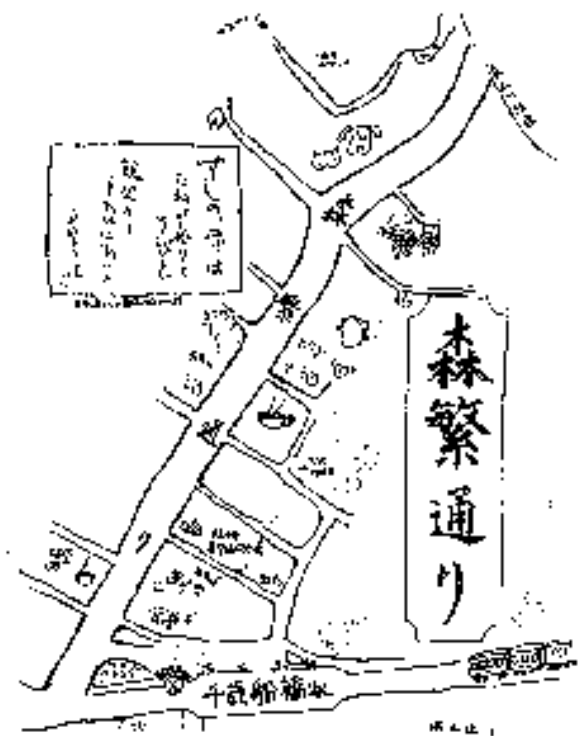
晴天に恵まれた秋の日、千歳船橋駅前広場にて森繁通りの命名式典が執り行われた。熊本世田谷区長の挨拶に続き、ご子息建(たつる)氏の挨拶があり、命名を祝うテープカットが行われた。式典では千歳丘高校のブラスバンド部が「知床旅情」などの演奏で花を添えた。

故森繁久彌氏は六〇余年前にこの地、船橋に住まいを構えられ、その後有名になられたあとも船橋を愛し住み続けられた。

森繁氏の著作の中に森繁通りに関する一文があるそうだ。夜半の帰宅時にタクシーで、何度も道を指図すると「だんな、ここは、モリシゲ通りつてね。そういつてくれりやすがわかつたのに・・・」と運転手。家の前を百メートル通り越し、顔を伏せて下車する話である。すでに船橋近隣の住民にとってはおなじみの森繁通りがいささか遅まきながら区より正式に認定されたのである。

式典での建氏の挨拶に、準備が整いつつあるこの境界を夜に自転車で回られた話があった。天国にいる父上と会話を交わしながら、文化勲章、国民栄誉賞をいただき、世田谷区の名誉区民でもある父から「お前も世田谷区民として恥じないように生きろ」と言われているように感じられたそうだ。ご子息には厳しい面もあった森繁氏も私たち地元住民からすると永遠の大スターであることに変わりない。すでに生活に根付いた名前であるが、通りにきれいな名板(森繁通り)もでき船橋の地も誇らしげに感じた。

通りの命名に合わせてJA東京中央船橋支店のショーウィンドーで文化勲章やお写真が展示された。又、桜丘図書館では森繁久彌氏に関する特別コーナーが設けられ、老若男女を問わず大変好評で地域の特色あるコーナーとして拡張の予定だそう。秋の一日、今尚、愛され続ける偉大な地元の先人に触れてみるのもいいかもしれない。(R)



今、土の小径を街に育む

船橋小径の会 西川 美枝子

千歳丘高校脇の小径は烏山川へ注ぐ水路跡ですが、土と、生きものが暮らす環境が評価され、二〇〇二年区の地域風景資産に選定されました。川沿いの植物が今も残り懐かしさの漂う土の散歩道は、かつてはどこにでもあった風景と環境でしようが今は世田谷でもほとんど残っていません。

私達が便利さばかり目を向け街を変えてきたためでしょうか。道は、一番急いでいる人に合わせて整えられています。高齢化だけでなく、団塊の世代の現役リタイアなどで、自分の街をゆっくり味わう人がさらに増え、街に愛着を持ち、大事にされてきたものを引き継ごうとする人が現れるはずで。

近所の人がビデオで小径を撮影してくれました。再生して驚いたのは、収録された音です。絶えない鳥の声、セミ時雨、撮影者が土を踏む足音。何十年前前の小学校臨海学校の「こまを思い出しました。先生が砂浜で叫んだのです。「目をつぶって海の音を聴きなさい」。私達は潮騒というものを初めて知りました。小径にもこれに通じる世界が溢れています。主催セミナーで日本民芸館の学芸員尾久さんは「小径を歩き美しいと感動する時、ここが人生にも匹敵する長い道になる」と小径の魅力を語ってくれました。

風景の美しさはそこに暮らす人々の心を映すと聞いたことがあります。心和む風景は地域が時間をかけて育んだ街の財産です。機能的で便利な街へ変貌する今、風景や環境をどう守れるか私達一人一人が試されていると感じます。



第21回船橋ふれあいまつり 11月3日



ふれあいまつりで、毎年、楽しみにしているのが、フリーマーケット。今年は、冬物のスーツを100円で買いました。大満足です。さて、お土産に野菜でも買おうと思ったら、何と、朝は山積みだった野菜が昼には売り切れ。みなさん、美味しいものはよく知っているんですね。子どもたちは、自由に歩きまわり、駄菓子屋でお菓子を買ったり、つくたてのお餅を食べたり、本当に楽しそうです。安心して遊べるのは、地域のみなさんの、安全パトロールのおかげですね。

舞台では、パワフルなダンスが披露されていて、周りで観ている人たちも一緒に体を動かしていました。赤十字の献血コーナーでは、小学校の校長先生が献血されるなど、まさに「ふれあい」を感じるお祭りでした。(K)



船橋地区民生・児童委員協議会主催の「お茶席」も、途切れることなくお客様が来店され、200個用意したおまんじゅうは終了前に完売！甘い和菓子とお抹茶といえば、ご年配の方ばかりと思いきや、意外とお子様連れの方も多く訪れました。「毎年楽しみにしています…」という常連のお客様から、「美味しかったので、本日2回目！」というリピーターの方までいらして、秋の柔らかな日差しの下でいただく野点(のだて)の味わいは、また格別なものようです。中には、「息子に作法を教えてほしい」という親御さんもいらして、文化の日になんで、日本の伝統文化にふれていただける好い機会となりました。(H)

■■■ご協力ありがとうございました■■■

- ☆ 社会福祉協議会 会員募集・会費納入 2,161件 1,686,950円 砧地域社会福祉協議会船橋地区
- ☆ 赤い羽根共同募金 2,320件 1,241,144円 共同募金砧地域協力会船橋地区

☆☆編集後記☆☆

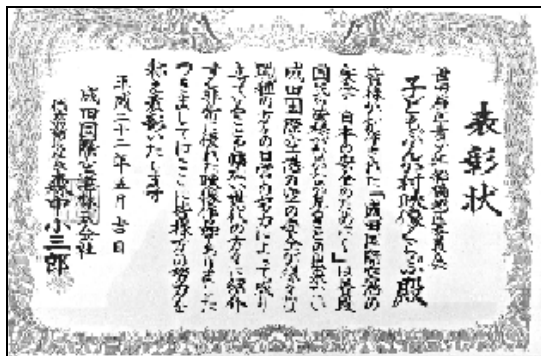
「火事とけんかは江戸の華」(川柳)は「江戸の恥」が言い換えられたという説もありますが、三年に一度に焼け出されるのを覚悟しなければ、江戸の下町には住めなかった。季節感喪失の今日でも、これから冬を迎えます。冬に大火が多いのは北西季節風がカラッ風になる太平洋側であり、雪国の日本海側は、雪の消えた春に高温乾燥のフェーン現象で大火が多くなる。これから、何かと火を使うことが多くなります。乾いた強風は、消防の敵です。火の用心！火の用心！

編集委員は皆様の声を励みとしてこの一年頑張っ参りました。どうか来年も宜しく願い申し上げます。よいお年を！！ (K)

「映像くらぶ」表彰される

子どもぶんか村(青少年船橋地区委員会)

今年の5月に、成田国際空港株式会社より子どもぶんか村映像くらぶの昨年度作品、「成田国際空港の安全」が表彰されました。



船橋地区社会福祉協議会 「たより4」

たんけん 住みよいまちへの探健事業

7月27・28日猛暑の2日間、大東学園・福祉専門学校の生徒さんと地区社会福祉協議会推進員の147名の協力のもと、町を歩いて調査し研修会を実施しました。

これから、来年3月までにはこの資料をもとにしてマップ作りをいたします。マップの出来上がりを楽しみにお待ちしております。